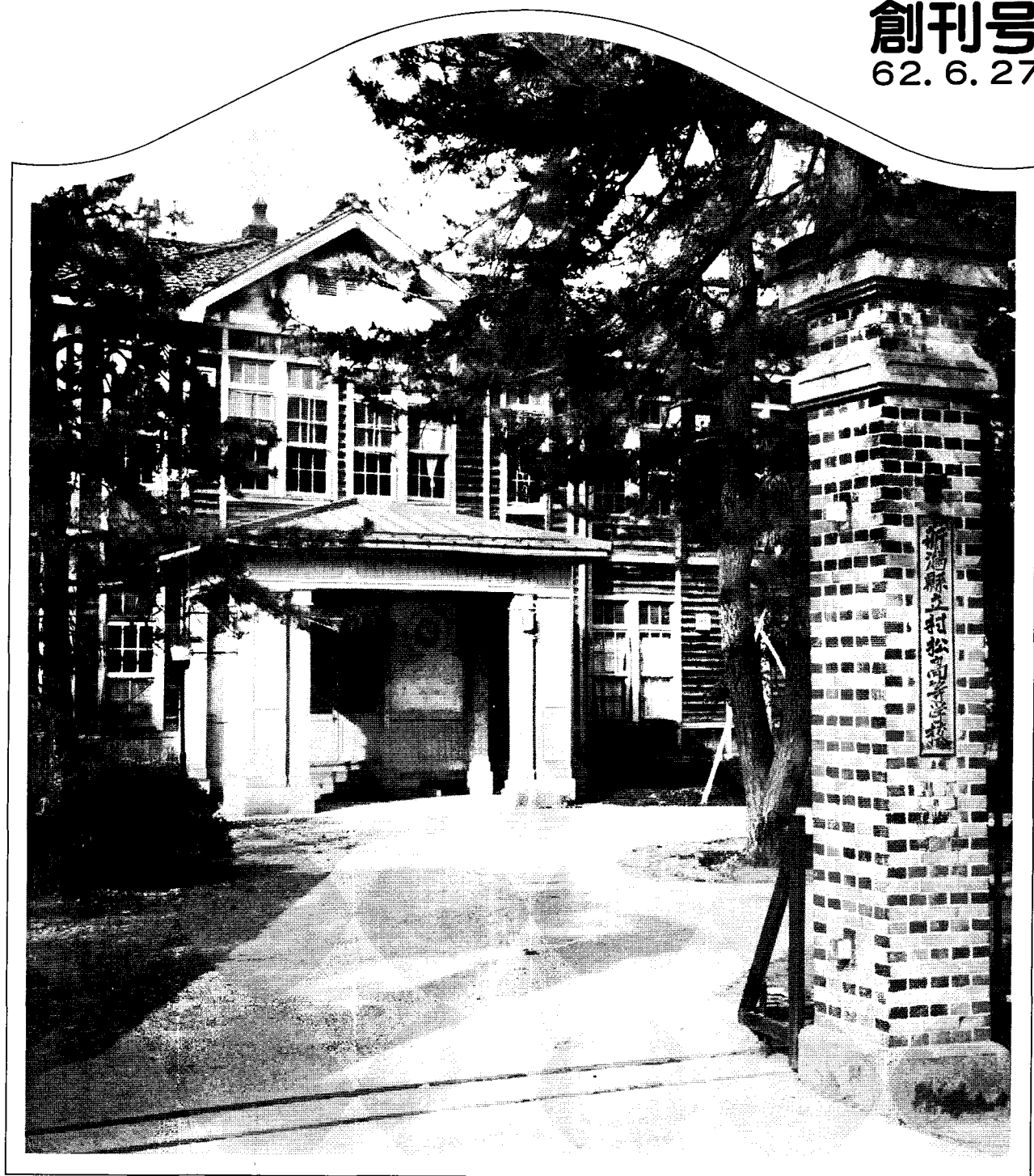


昭和62年度 松高同窓会東京支部大会

仮題 臥龍ヶ丘は緑なり

創刊号
62. 6. 27



昭和62年度東京支部大会プログラム

昭和62年 6 月 27 日 午後 3 時30分

於 日本鋼管高輪クラブ

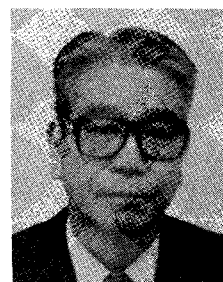
	場内司令	吉 田 松二郎	(中23)
開 会 挨 拶	司会	八 木 又一郎	(高 7)
		大 橋 貞 夫	(高10)
		深 見 洋 子	(高 7)
経 過 報 告		中 村 倉 吉	(中22)
支 部 長 挨 拶		佐 伯 益 一	(中27)
来 賓 挨 拶	同窓会長 (村松町長)	茂 野 敏 郎	(中17)
来 賓 挨 拶	学校長	法 性 昇	
関係職員紹介並挨拶		大 塚 滋 明	(高 2)
		酒 井 邦 男	(高 5)
懇親会開会挨拶		幹 事	
乾 杯	音頭	最 年 長 者	
歓談・会食			
抽 選 会		伊 藤 勇 五	(中33)
		佐々間 英 輔	(高 6)
		大 橋 貞 夫	(高10)
余 興		有 志	
手 締 め		支 部 長	
万 歳 三 唱		同窓会長	
閉 会 挨 拶		幹 事	

(大会運営委員は支部幹事全員)

= 表 紙 = 明治以来、親しまれてきた木造二階建の校舎は今はない
赤煉瓦の門柱だけが75年の歴史をおぼえている。

(写真提供 村松町 近藤写真館)

ごあいさつに代えて “とにかくにもやってみよう”



東京支部長 佐伯 益

“やんだ、やんだ”と逃げまわり、“なんとか、なんとか”と押し問答の末、支部長を引きうけてからもう四年も経つ。

始めは次の役員が生まれるまで、リレーゾーンの役目でも果たせればと簡単に考えていたが仲々どうして、結構忙しいのに驚いた。同時に重大な事に気がついた。

今では県下に100以上の高校があると聞かすが、私の中学時代には県下には16～7の中等学校しかなかった。言うなれば松高は県下の名門校だ。

今でもよく訊かれる。“一体村松って何処にあるんですか”と“何を”と反発するが説明するのに骨がおれる。

卒業生も随分とたくさん関東地区へ来ている筈だ。

自分の母校を胸を張って自慢出来るようであればならぬと考えた。独り寂しく都会に暮している後輩も居るだろう。年老いて訪れる人もなく過している先輩も居るだろう。そうだ先ず同窓会支部の陣容を確立することだと。先ず隼より始めよとばかり考えたのは旧制中、旧高女、新制高の卒業生の年齢の壁を取り除くことであった。

私は赤山会の幹事を長年やっていた。これは旧制中学卒の有志の集まりであったが、誘われて一緒に飲んでいる内にいつの間にか幹事にされてしまった。始めは私が最下級生であり知っている人はほんの2～3人で誠に心細かったが、持ちまえの心臓で名刺を山程もって話に割って入り自己PRにつとめた。すると案外なもので、あなたの親父さんを知っているよとか、きりん山温泉へ泊まった事があるよとかと急に話が近づいてきたものだ。

私が幹事として会合がある時は（宴会が主だが）どんどん同級生や下級生にも案内状を出して、会に引っぱりこんでいった。これは支部長になった今でも考えは変わらない。なにしろ村松という小さい地域（失礼）を中心とした郡部の出身者の集まりだから話しあってみると、

親類同志であったり、おなじ町内出身であったりで共通の話題が多く、年齢の差を越えたコミュニケーションが図られたのは大きな収穫であった。

その結果が名簿を作ろうということになり、約1年がかりの労苦の上、昨年皆様のお手元に配ることができた。

（関係各位の御労苦及び広告賛助に対する御礼はこの際省かせて頂く）

然し、残念な事にはここ2ケ年程の間に転居先不明で返信された分が約70名に及んでいることと、鬼籍に入られた方が1年間に8名も居られる事である。何とも言いようのない寂しさにとらわれる。

いわゆるゴールデンウィークを潰して、大会の宛名書きに専念したが約850通は書いた。文書の封入や切手はり等は幹事の皆さんに手伝って頂いたが、これも一日では終わらなかった。

宛名をボールペンで書くのは仲々疲れる。やむなく下手くそ乍ら毛筆で書いた。これなら手首が疲れないし筆の滑りがはよい。うちのかみさんが言った。年をとると手に力が入らなくなるからシルバーの皆さんは何だかんだと理由をつけて、毛筆を練習するようになるんですって、と。

何を言いやがると思い乍らもなる程なあとと思う。何しろ800枚以上の宛名書きは大変だった。書き乍ら考えた。この内何通返事が帰ってくるのかと、半分以上返事無しが例年の状態だ。無駄もあるなと思った。この経費も出席者が負担しているのだなとも思う。何だかバカバカしくなった。

然し、この案内状を待っている人も居る筈だ。昨年止むを得ず欠席した、今年こそは出席したいと思っている人も居る筈だ。だから書かねばならない。そこで相談の結果決まったのが、正会員（仮に）の登録だ。これは大会案内状に趣意書を同封してある。誤解されているむき

もあるが御理解をお願いしたい。

6月15日現在大会出席者を含めて正会員登録希望の方は約200名に及ぶ。大会出席者は希望ありと勝手に判断させて頂いたが約80名の方は印がついてなかった。意味がよく理解出来なかったのか、或いは忘れたのか、希望なしも随分ある。然しそれでよいと思う。必然的な事乍ら今後は正会員登録者を以って、同窓会東京支部は運営されてゆくことになるだろう。当然乍ら年会費も頂く事になるだろう。以上が第二の問題である。

本年度大会に何か記念になるものをと皆んなで考えたが今まではタオル位であった。本年はテレホンカードはどうかと意見が出た。よかろうと一決。

借金して作った。仲々良い出来ばえである。皆さんに喜ばれることを期待している。然し借金は返さねばならない。そこで前もって寄付金を特に範囲を限ってお願いしてみた。これも幹事会における発議の一つであるが、思いもかけず多額の寄付金が集まりつつある。私はこれを基金と呼びたい。大切に扱いたいと思うのは私一人だけではないと思う。お金に関する事からは以上の通りである。お金を扱えば当然の事乍らきまりが必要である。

冒頭に書いた、私が支部長になって4年経つ。任期がないから何年いや何十年やってもかまわない。又半年たってわたしはいやだからやめたよと言ってもかまわない。これではあまりにも節目がない。人生節目節目が大切だ。再任ということもあるだろう。けれども役員の任期というものは必要だ。お金の問題とからんで会則はどうしても作らねばならぬ。同窓会本部に会則があるから東京支部には必要ないとの意見もあるが、それとこれとは別問題だ。支部が本部に隷属し、すべてその指示に従うものであれば補助金交付金のようなものをいただきたいと申しあげたくなる。本部にあっても支部には予算は一銭もない。東京支部は自治体と考えてよい。支部は自主的に運営されている筈である。(但し経済には弱いが)現在本部と支部との交流は誠にうまくいっている。

学校当局及び町当局からも非常に御協力を頂いている。それで良い。然し会則は必要である。これを皆さんに考えて頂きたい。中曽根さんだってあれだけ立派な業績を残しており乍ら5年もたてば飽きられてくるのである。

以上勝手な事を申し述べた。反論もあろうし御批判も

あろう。然し、叩き台がなければ話は先へ進まない。宜しく御理解を得たいとおもう。幸い私は今日良き協力者、役員幹事の方々に恵まれて誠に嬉しく且つ大いに愉快的な心情である。

同窓会をもっともっと発展させ、新潟県全部の同窓会の連合体を作り、更に全国の連合体を一堂に集めさしずめ武道館でも借り切って、2日でも3日でも騒ぎ、歌い合ったらさぞ楽しかろうと思うのは私の夢の中の夢なのであろうか。

ともかく思ったことはとにもかくにもやってみようということである。

最後になったが、初の試みとして会報を発行することになった。年何回出せるか分らぬがとにかく1回きりでは終わらせたくない。役員大方のご意見である。永続出来るよう同窓各位の御協力をお願いする次第である。

同窓会名簿の発刊に当たりあいさつを述べたが、もう一度再録、引用してみたいと思う。

「同窓会は同級会の積み重ねによって成り立つとの観点から同一学年の横の連絡が充分とれ、学年幹事が同級生の消息を十二分に把握出来ることが必須条件であり、同窓会が魅力ある集まりになるよう会員各位の格段のご協力を願ひ同級会の活発な動きを期待するところである。

「重ねて言うが同窓会は単なる親睦会ではなく、母校を出て関東地区へ上京してくる若い後輩たちのため、喜んで相談に応じ、手をさしのべる会でなければならぬ。

そのためには親しみやすい会として、積極的に参加されることを切望する。

港区高輪に事務所を開設したのもその所以である。

以上



校門は何を語る

学 校 長 法 性 昇



雪の降った3月26日、事務引き継ぎに初めて本校を訪れました。

赤レンガの校門に感激し、守衛小屋はここかな、奉安殿はあのあたりかなあと、見事な松に見とれている時、二階の窓より美しい声で名前を呼ばれ、歓迎を受けました。

何と立派な学校だろう。

事務室に入り、旧木造校舎正面の写生図を見て、すっかり母校に帰ったと感じました。長岡中学時代、剣道部として好敵校であり、初めて勤めた小千谷高校（当時中西中学校長）・長岡高校（17年間勤務）時代は陸上競技の目標校であり、常に親しみを感じておったせいだと思います。

前校長滝沢先生より、いろいろとお話をうけたわり、また御指導を受けました。

特に生徒の異動・高校入試の実態を知り、深く心に期すものがありました。

また関谷先生より創立70周年記念誌を頂き、二度三度と読み重ねるごとに、喜びが深まり、責任の重さを感じます。

生徒を大切に、全職員一体となり努力し、全ての人の期待にこたえたいと念じています。

失礼とは存じますが、生徒と初対面の学年始めの話を記させていただきます。

「進級おめでとう。心よりお祝いを申し上げます。

ともに机を並べて学んでおった皆さんの友の何人かが、本校を去りました。

心が傷みます。

夫々の新しい進路で、立派な大きな人となることを、皆さんとともに祈りたいと思います。

新しい学年の始めにあたり、皆さんにお願いしたい。

『生きて欲しい。』『生きて欲しい。』ということです。

死んではいけない。

自からのあやまちで、自分や他人を傷つけてはいけません。交通事故等は絶対いけない。

バイクは文明の利器ですが、これがために自分を見失うことのないよう十分に注意して欲しい。

若い皆さんが生きては、大きく成長することです。

大きく成長するためには学ぶことです。

学ぶとは、自から積極的にやることです。

言葉をかえて、具体的にいえば、学校は休まず、遅刻しないこと。きれいに清掃すること。そしてクラブ・部活動に熱中することです。そうすれば、1時間、2時間の授業は、おのずから充実してきます。

先生方は、皆さん一人ひとりを相手に授業されています。心して授業を受けなさい。

赤いレンガの門柱は何を語るか。

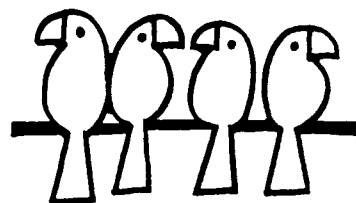
私には聞こえてきます。

若者よ。目先の安易な欲望にとらわれるな。道を求めよ。と、

誇り高い村松高校の栄光は、自主的に積極的に行動することにより築かれます。

臥竜会の一層の活動を期待します。

終わります。



今、村松高校では…

かしこく たくましく 心豊かに 明日を開く

昨年2月に「今、村松高校では……」を、お届けしました。12月に、教育をよくする村松町民会議が「高校教育 ざっくばらん」の集会を開きました。今回は、[第2集・1986年度版]をお届けし、日頃のご協力にお礼のしるしとします。引続き、地域の皆様から生徒に励ましを、学校教育にはご理解といっそうのご協力をいただきたいと考えて、本校教育活動の一端をお知らせいたします。

- 地域の学校……在籍生徒数（出身中学校市町村別・男女別・1986年12月現在）

	村 松 町	五 泉 市	他市町村	計
男 子	179	120	7	306
女 子	270	252	10	532
計	449	372	17	838

- 村松高校・教育目標

世の中のこと、自分のことについて常によく考えて判断し、将来を見つめつつ積極的に現実の問題にとりくむことのできる人を育成する。

◇ かしこく [学習指導]

- 基礎学力の向上をめざして、本校では、英語・数学・国語の基礎的教科について、文部省の「1年生は、1週間に4時間を標準に」を上回って、1週に6時間の授業を実施しています。

学年別に英単語・計算力・漢字の小テストを繰り返して、基礎学力の向上に役立てています。

- 学力の充実をめざして、教科の研修に努め、みんなに分かるようにきめ細かく工夫した授業を展開していきます。

3年生は、生徒自身の志望進路にあわせて、進学向（文科系・理科系）・就職向・教養向の授業科目を選択し、学力を深めています。

- 一人ひとりの力を伸ばすために、進学志望者向・学力不振者向の補習が、熱心に行われています。

自己の適正をつかみ、志望進路にあった実力をつけるために、多様な模擬試験を実施しています。その上で、一人ひとりの個性と進路にあったマンツーマン（生徒一人に先生一人）の指導にもとりくんでいます。

- 力を合わせて教職員は、生徒一人ひとりの学力を伸ばすように学習指導にうちこんでいます。

なお、生徒自身が高校生の自覚をもち、自ら学ぶ気風を育てたいものと、授業と予習・復習などのあり方に“もう一工夫”をこれからの課題にしています。

◇ たくましく [生徒会・クラブ活動]

- 臥龍会（本校の生徒会）、自主的に組織され、運営されてきました。本年度の臥龍会執行部は、6月の体育祭、10月の臥龍祭（文化祭）、7月・12月の球技大会などでリーダーシップを発揮して諸行事を盛上げました。

- 剣道部女子の県大会で団体3位・個人3位をはじめ、クラブ活動に活力がよみがえってきています。26のクラブ（部・同好会）が、キャンパスいっぱいでも足りないで、町営グラウンドにもおじゃまして活動しています。本年度は、剣道部・陸上部・テニス部・バレー部・スキー部などが、引続いて各種大会で入賞しています。陸上部の3年生服部孝子さんは、新潟県高校女子砲丸投げ十傑の4位にランクされています。

吹奏楽部の定期演奏会が20回をかぞえ、町民の皆様におなじみになっています。書道部の作品展は村松町・五泉市・新津市で催され、好評です。同部3年生今井浩子さんは、書道作品によって毎日新聞社賞を受けました。家庭クラブの愛松園慰問もすっかり恒例になり、入園者に親しまれ、喜ばれています。

- **輝かしい往年の名声**には、まだ及びもつきません。本校は、優れた技術と指導力を備えた顧問に恵まれ、また外来のコーチもまねいています。しかし、顧問やコーチの折角の実力と熱意が、生かされていないのが現況です。教職員は、生徒の自発的な積極性を引き出す点を、今、最も重視しています。

◇ 心豊かに〔生活指導〕

- **高校生としての生活確立を手助けするために**、毎日、全教職員が指導にあたっています。分野は、登下校時の交通安全をはじめ、挨拶、出欠席、遅刻、早退、清掃、服装・頭髮、夜間外出など多岐にわたっています。また、夏休み・冬休み・春休みなど長期休業中は、アルバイト、自動車運転免許の取得、旅行、その他について、特別に注意を用いています。

- **交通安全指導に力**をいれています。県下の全高校は、自動二輪車の免許取得を制限しています。

本校生の50cc、バイク免許取得・バイク保有・バイク通学は、ともに高率です。それだけに、交通違反や事故も決して少ないとは言えない現状です。そこで、全校生徒に映画や専門家の講話を通じて安全意識を高め、クラス討議でより深めようとしています。特にバイク通学生には、警察白バイ隊員から直接、運転技術を受けるように、年2・3回の機会を設けています。それでも、なお交通違反について、数多く皆様から指摘や叱正をいただいている状況です。

- **個別の特別な指導は**、交通違反が突出しています。その他、特に見られる問題行動については、個別の指導を行っています。本校では、すべて教育上の問題と考えて、生徒本人が反省し自律するように、手助けしています。ですから、いわゆる「処分内規」は作っていません。

- **保護者との協力を大切に**考えて、PTA行事・「PTAだより」は勿論ですが、日常の電話連絡・「クラス通信」・家庭訪問の他、「嚆標」・「臥龍」・「お元気ですか」・「図書館報」・「Books」などを発行してミニコミュニケーションに努めています。

なによりも人に迷惑をかけない、ひいては人の痛みが分かる、さらに人の役にたちたいと、心豊かな成長を期して、保護者とともに、生徒の身内にひそむ芽を伸ばしたいものです。

◇ 明日を開く〔進路指導〕

- **創立75周年の伝統の重み**が、進学・就職に有利に働いています。時宜を得て同窓・先輩の力が発揮されています。

- **進学志望者は、約30%と少数**です。新聞の「大学合格者」欄を探しても（村松）が見当たらず、残念に思われます。

カリキュラム・進路相談・補習・模擬試験など、伝統のシステムが生きています。志望者が少ない点を生かして、マンツーマンの指導も行っています。推薦入学は、優れた先輩の実績が役立って、好成績です。

- **就職志望者が、約70%と多数**です。深刻な不況・就職難の中で、学校斡旋の志望者は内定率99%になっています。

本年度も、夏休み中に3学年の保護者会を開き、2学期のシーズンに備え、出足好調を期しました。

- ◎ 今、村松高校では、生徒が賢くたくましく心豊かに成長し、自らの力で明日を拓くように、教職員が力を寄合って教育目標の実現につとめています。

なお、分会はより根本的な課題として、次の2点を望んで活動しています。

- ① 中学区制になってから20年、学校間格差が大きな問題になっています。学区制と入試制度を改善して、もっと地元の高校へ進めるようにしたい。
- ② 引続く不況の中で、教育費もかさんできています。県の学校教育予算を増やし、奨学制度を拡充し、授業料減免枠を増やすなど、教育費の父母負担を軽減してほしい。新高校は、主任手当を拠出して「希望奨学会」をつくり、本校でも5名がこの会の奨学生になっています。

1987年3月

クラス会短信

◎ 旧制中学第22回卒（昭和12年3月）のクラス会が卒業以来正に50年ぶりに今年5月31日午後4時より、東蒲津川町きりん山温泉ホテル福泉にて開かれた。物故者34名、現在38名の内19名が出席、尽きることのない話の内に短い一夜を過し、翌日は阿賀野川船下りを楽しみ、村松小学校城跡公園を経て母校へと訪問、正門前で記念撮影後、早出川ダム、村松記念公園を探勝、ふるさと会館にて昼食し解散したが、半世紀ぶりの会合とあって出席者一同大喜び、元気で再会を誓い合った。

東京方面からは、亀嶋、田代、中村の三氏が出席した。（中村倉吉記）

◎ 旧中学33回と旧高女25回卒業生の合同クラス会は6月5日、6日の両日群馬県四万温泉やまぐち館で開かれた。出席者は東京方面からと村松方面からの合流で12名であり、東京からの参加者は自動車を利用、翌日は付近の景勝地のドライブを楽しんだ。このクラスは毎年開かれており、東京、村松或いは五泉と幹事が廻り持ちで、夫々趣向をこらしたもよおしが行われている。

特にこのクラスは旧制末期、高校初期とにまたがっているため数も多く、人材が多い。

東京からは伊藤勇五、中村雅明、芳賀健一、岡本和子、小林早月各氏他、村松からは前県議斎藤勝夫氏他が出席した。



阿賀野川ラインの景勝地

き り ん 山 温 泉

ホ テ ル 福 泉

磐越西線・津川駅・鹿瀬駅、下車バス10分

電話 02549-2-3131

（東蒲原郡鹿瀬町鹿瀬）

お便りのなかから

◎ お知らせありがとうございました。私こと
一歩一歩あるき続けて70余年、老人天国の様な佳き時
代に巡り逢い、毎日感謝の日々を過しております。今
静かに述懐する時“人生はやり直しが出来ぬこと”
“若い時は二度ない”と言う過去を残念に存じて居
ります。

旧高女8回卒（S.5年）新保美和（台東区上野）

◎ 名簿の発行、御苦勞様でした。貴殿のお話のなかで
“同窓会は同級会の結集である”との言葉がありまし
たが全く同感です。私も微力ながら努力をしたいと思っ
ております。

こうした輪を拡げてゆけば同窓会ももっと盛大にり、
ひいては学校も立派になると考えます。

貴殿は赤山会の幹事でもあり、本業の外にこの種の
ことに御盡力の段感謝に堪えませんがよろしく願ひ
します。

御案内の趣旨大賛成、登録を希望します。

佐伯支部長宛 旧中13回卒（S.3年）水尾広吉

◎ 大会当日、名古屋にて全日本ジュニア選抜陸上競技
会があるため欠席します。御参会の皆様によりしくお
伝え下さい。御盛會を祈念します。

会費制について一会の運営資金として正会員登録制
と低額2,000円位を徴集して、これに当てることとし
たら如何かと存じます。

旧中25回卒（S.15）吉田正平

コトブキドライセンター

株式会社 寿

代表取締役 中村 倉吉
（旧中第22回卒 五泉出身）

〒108 東京都港区高輪2-1-24

TEL 03（445）6501-2

◎ 歩行不自由のため出席しません。

通信費等のため、会維持費徴収に賛成します。ムズ
カシイ事は言いません。振替用紙をどうぞ。

高4回卒（S.27）鈴木忠雄

◎ 例年の如く年度始め（6/1～8/20）南米出張で
欠席となります。現役で技術協力で（国際協力事業団）
頑張っております。先日五泉で旧友に会いました。秋
に18年卒で同級会がある由です。年の内半分程度南米
に居りますので、中々出席できず恐縮です。アト何年？
か後、暇になったら出席させていただきます。シルバ
ー族でも元気に頑張っております。連絡だけは願ひし
ます。

旧中28回卒（S.18）五十嵐三雄

◎ 出席出来ず残念です。御盛會を祈ります。

旧中7回卒（T.11年）杵淵政光

（他に同様返事、多くありました。— 係より）

* ◎ 正会員登録制は本部でやるべき事ではないか。

◎ 正会員登録は、あくまで個人の意志を尊重して
やるべきで、取扱は慎重に。

◎ 会報の発行は必要だろうか。

などの御意見等もありました。— 係より

永幸産業株式会社

代表取締役 伊藤 勇 五
（昭和23年旧中33回卒 鹿瀬町）

〒150 東京都渋谷区道玄坂2-16-8

TEL （03）770-3291

61年支部大会前後からここ1ヶ年の間に、次の
方々が亡くなりました。

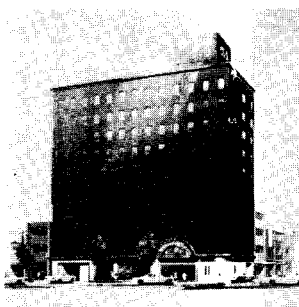
謹んで哀悼の意を表します。

写真は同窓会東京支部発展に一番貢献された
故 山 村 勲 氏

旧中2回	権 平 昌 司	61.12.27
" 10回	成 田 成 寿	61. 9.26
" 11回	山 内 樹 五	61. 8.
" 13回	西 潟 新 吾	61. 5.
" 16回	山 村 勲	61. 5.19
" 16回	落 合 正 吾	61. 8. 5
" 22回	田 沢 豊 作	62. 2.
" 29回	権 平 正 義	61. 8. 30



ビジネスに 2つのヴィラ

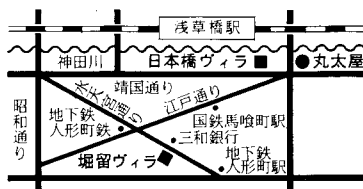


電話 (〇三) 六六八〇八四〇
東京都中央区日本橋馬喰町一丁目
● 日本橋ヴィラ



電話 (〇三) 六六四〇八四〇
東京都中央区日本橋堀留
● 堀留ヴィラ

● シングル 6,500 円より (税・サービス料込)



BUSINESS
HOTEL **ヴィラ**

丸太屋株式会社

〒103 東京都中央区東日本橋2-26-8
電 話 03-862-0681

塚 田 勝

(高8回卒)

自 宅 浦和市原山4-23-12

校 歌

旧県立村松中学校校歌

旧村松高等女学校校歌

新 校 歌

1. 塵の巷を遠ざけて
雲たち迷う白山の
麓に立てる松の群
見よ凌霄の気を含む

2. 緑色濃き木陰には
夏も尽せぬ泉あり
湧きて流れて末遂に
汪洋として海に入る

3. 落葉をくぐる流れにも
岩石砕く力あり
清きは水の姿にて
強きは誰か心ぞや

4. 万緑の気地に潜み
風雪野山に荒るる時
色さえ変えぬ常磐木の
強きは誰か操ぞや

5. 八億垂細垂の民率い
行手遥けき文明の
海原遠く漕ぎ出でん
これぞ吾等がつとめなる

6. それ英雄も人傑も
人の子吾等がたぐいなり
嗚呼松城の健男児
勇みて立つべし諸共に

1. 愛宕の山のむら松の
常緑色の常磐なる
操を胸に日の本の
をみなの徳を磨かばや

2. 心は身はも真夏なほ
日に輝ける白山の
雲にもまさる清さもて
正しき道を進まばや

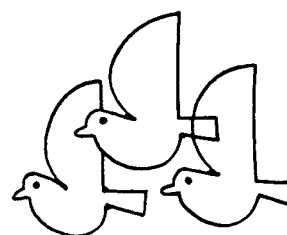
3. 其の名も高きこの里の
桜の花のうらうらと
のぼる朝日に匂うごと
気高き姿保たばや

4. 世界に比なくうるわしき
皇国の民と生れきし
幸をおもひていざやいざ
手を取り共に励まばや

相馬御風 作詞
中山晋平 作曲

1. 普く照らす天つ日の
光を浴びて年々に
伸びてしまめ若松の
ときわの志操いや堅き
学徒われらの在るところ
明朗の和気みなぎれり

2. 見よ質実に清純に
進取の生気湧き溢れ
文明の花の咲くところ
希望は常に輝ける
道に我ら 進ましむ
努めなんいざもろともに



応援歌

応援歌 (1)

1. 緑濃き臥龍ヶ丘に
轟くは我等が歓呼
若人の高なる血潮
たたえつつ春の日めぐる
2. いざ叫べ若人の誇り
わななける力の腕
見よや君歓喜の胸に
輝くは永久の勝利

応援歌 (2)

1. 臥龍原頭幾星霜
切蹙琢磨の功を経て
からくれないの香に匂う
誉れは高き松城の
健児が胸に血やおどる
2. 我等がえらぶますらおの
誉れは海の湧くがごと
望みは雲のゆくがごと
月の桂をなゆずりそ
栄えある名をぞとこしえに



応援歌 (3)

1. 松城健児六百が
祖国の為に剛健の
大図をここに定めんと
送りいぞせし我が勇士
覇権をゆずる事なかれ
我等六百ここにあり
2. 臥龍原頭精気あり
義憤に満ちし大丈夫が
驕奢の潮せきとめて
逸惰の眠り打ち破り
高うつ胸の雄叫びに
進めとなるを如何にせん
3. 今壮快の晴れ戦
見よ雄叫びの只中に
我等が望み一筋に
肩にぞかかる勇戦士
覇権をゆずることなかれ
我等六百ここにあり

昭和 62 年 6 月 創刊号

編集・発行 : 新潟県立村松高等学校同窓会 東京支部

事務局 〒108 東京都港区高輪 2-1-24

TEL 03 - 445 - 6501